

丹後地域における幼木茶園の雪害対策技術

農林センター 丹後農業研究所

要旨

積雪量の多い丹後地域で、乗用型茶園管理機（水平仕立て）を利用した大規模茶園の育成に当たり、積雪による枝折れ対策技術として「整枝」が有効である。定植1年目から秋整枝を行い、その後定植3年目までの整枝は春と秋の年2回行う。また、冬期の風害・寒害による影響を軽減するため、秋整枝はやや高めに仕立て、翌春に被害部分を刈り落として本来の高さに仕立てる。

成果の概要

- ①定植1年目から秋整枝を行い、その後定植3年目までの整枝は春と秋の年2回実施する「丹後方式」の整枝体系により、チャ幼木の枝条は充実し、積雪による枝折れ被害は軽減される（最大積雪深56cmの場合）（表1、2、図1、2）。
- ②早期成園化のために定植3年目から夏整枝を行うと、枝径が細くなり、積雪による枝折れ被害を誘発するため、枝条が充実していない早期段階での夏整枝は回避する（表1、2、図2）。
- ③幼木茶園では、秋整枝をやや高め（翌春の高さ+約20cm）にし、翌春に本来の高さに整枝する「2段階仕立て」により、冬期の風害・寒害の影響を軽減することができる（データ略）。

表1 試験区の年次別整枝の高さ

試験区	内容	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
丹後方式	毎年春に10cmずつ上げる 4年目夏に摘芯を行う	定植時15cm	春 20cm	春 30cm	春 40cm	春 50cm
		秋 40cm	秋 50cm	秋 60cm	7月 摘心 秋 70cm	一番茶収穫
夏整枝区	3年目から夏整枝をして 早期成園化を狙う	定植時15cm	春 20cm	春 30cm	春 40cm	春 50cm
		秋 40cm	秋 50cm	夏 35cm	6月 45cm	一番茶収穫
				秋 60cm	秋 70cm	

*上記は基本形であり、茶樹の生育に応じて判断を行うこと

表2 幼木期の生育停止期調査（2008～2009年）

試験区	品種	3年目		4年目	
		株張り(cm)	秋整枝面枝径(mm)	株張り(cm)	秋整枝面枝径(mm)
丹後方式	やぶきた	101.1	3.2	110.5	3.3
夏整枝区		103.8	2.5	109.1	2.2
丹後方式	さみどり	103.5	3.1	118.4	3.8
夏整枝区		103.7	2.8	114.3	2.5



図1 定植1年目の秋整枝をしなかった茶園
(枝条が雪で引っ張られて分枝部が裂けやすい)

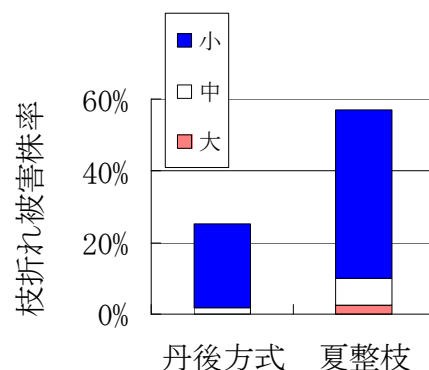


図2 積雪による枝折れ被害（2009年）
(定植4年目、やぶきた)

* (小) 株当たり1～40%の被害程度、
(中) 41～80%、(大) 81～100%とする

(問合わせ先：0774-22-5577)